

## 特集「人権・多様性社会」について考える その3

### 「シトラスリボン」でコロナ差別防止 呼びかけ

〈緑丘学区〉

「シトラスリボン」は、新型コロナウイルス感染者や医療従事者に対する人権侵害が多く発生していた時に、それらを防止する取組のシンボルとして、愛媛県で生まれました。特産品である柑橘（シトラス）にちなんでおり、リボンの3つの輪は地域・家庭・職場や学校を表しています。

リボンをつけることにより、もし感染したとしても地域で「ただいま」「おかえり」という気持ちを広げていこうというプロジェクトです。



### 学習から行動へ

昨年度、緑丘学区の住民学習会で「シトラスリボン」の取組を紹介した教材を使用しました。高屋市営住宅で開催した学習会に学区人権学習推

進協議会の坂本会長が「シトラスリボン」を付けたマイバッグを持参され、リボンの実物を参加者の皆さんに紹介しました。その際に「みんなで作ってみたい」という意見が出されたのを受け、後日地域のサロン活動で作成することになり、理解の輪が広がりました。

このように、学習したことが行動へとつながるのは小さなきっかけからなのかもしれません。私たちの身近なところにも出来ることはたくさんあります。一人ひとりの気づきや意識の変化が大きな動きとなり、社会全体を変えていくことができるのではないのでしょうか。

### 「人権・多様性社会」を考える機会に

「東部入れこみ情報」では、「人権・多様性社会」について特集記事を連載します。考え合う機会としてお読みいただけましたら幸いです。